

虐待児をなくすために

さんむチャイルドサポート

成長発達が著しく阻害され、精神的にも傷つく子どもたち。市では、社会的な問題となっている「虐待」防止のシステム化を図るため、今年4月、「要保護児童対策地域協議会」を設置しました。児童福祉・保健医療・教育・警察司法・救急防災・地域福祉機関からなる協議会では、代表者会議を5月20日に開催、日本子ども家庭総合研究所^{さいむらしゅん}ソーシャルワーク研究担当部長（関西学院大学人間福祉学部教授）の才村純氏を講師に迎え、「協議会の効果的な運営について」の講演会を行いました。

講演会では、情報の把握や子どもとの関り方、サインを見逃さずに通告義務を優先させること。また行政の介入など子どもが救われるきっかけ作りが大事なことなどを学びました。協議会では今後もネットワークの活用で虐待問題への認識向上、環境整備など支援システム全体の検討を進めてまいります。



子育て、生き方を応援します

家庭児童相談室 ～子育ては、一人で悩まずにまず相談を～
 ■相談日 月～金曜日
 ■時間 午前9時～午後5時
 ■相談電話 子育て支援課 家庭児童相談室 ☎0479(80)8099



道の駅では、値段ではなく野菜の特徴や食べ方を主に表示しています

*オライ…「我が家」をさす意味の方言

オライの意味は？

韓国研修団が道の駅を視察

5月28日、道の駅「オライはすぬま」をお隣の国、韓国の農協組合NBA課程の研修団の皆さん20数人が訪問しました。一行は、大学教授や農協の幹部職員の皆さんで「道の駅」と韓国の「直売所」の違いについて現地視察のため立ち寄ったものです。

駅長の小高さんは、安全安心の食材提供をする道の駅の概要と、店内の特産品や名産品について一つ一つ丁寧に説明しました。加工品の許可はどうしているのか、各種イベントは誰が組んでいるかなど具体的な質問や、月平均2万個も売り上げのあるお惣菜や太巻き寿司などに興味が集中。また、「オライ」の意味について尋ねるなど熱心な質問が飛び交わされました。

まだまだ若い!

体力テスト

自分の体力年齢を知り、健康増進に役立てようと6月1日、さんぶの森中央体育館で「体力テスト」が行われました。参加したのは20歳代から70歳代までの男女60人。「決して無理のないように」と体育指導委員連絡協議会伊藤会長の説明を受け、前年齢共通の握力・上体起こし・長座体前屈に加えて、年齢別の20mシャトルランや10m障害物歩行など、9項目の測定を行いました。普段、自転車で「元気館」に通っているという70歳代の男性は、「年齢が高くなっても正しい姿勢でかっこよく歩きたいですね。運動は毎日続けることが勲章なのです」と若々しい笑顔を見せていました。



上体起こし、30秒間に何回できますか?